

報道関係各位

株式会社 OKB総研

第18回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

株式会社 OKB総研(大垣市郭町2-25 社長 五藤義徳)は、標題のアンケートの結果を取りまとめましたのでご紹介します。

《要約》

1. 主婦の景況感は依然として厳しい。

- ・主婦の景況感は、「良くなった」が8.6%、「悪くなった」が19.6%、「変わらない」が65.3%となった。「変わらない」との回答率は依然として高く、主婦の景況感は前年に引き続き厳しいことが分かった。

2. 物価上昇が強く意識された。

- ・物価D. I. (物価が「高くなった」－物価が「安くなった」の回答率の差)は、前年より低下したものの74.8%ポイントの高止まりに。
- ・家計支出は、消費税増税、物価上昇により、生活防衛型の家計構造に。

【調査概要】

1. 調査期間：2015年11月5日～11月11日
2. 調査方法：大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦（*）791名にアンケート用紙を配布・回収（無記名方式）
3. 有効回答者数：779名（有効回答率 98.5%）
4. 回答者属性：

年代	20歳代	7.2%
	30歳代	16.2%
	40歳代	31.2%
	50歳代	29.7%
	60歳以上	15.8%
住所	岐阜県	55.1%
	愛知県	40.9%
	三重県	1.8%
	滋賀県	1.7%
	その他	0.5%
就業形態	専業主婦	14.1%
	正社員・公務員・自営業	37.9%
	パートタイマー	45.3%
	内職・その他	2.7%

（*）本調査における「主婦」とは、既婚の女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

（注）数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある（以下同じ）。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：OKB総研 調査部 陸田 TEL 052-564-1520】

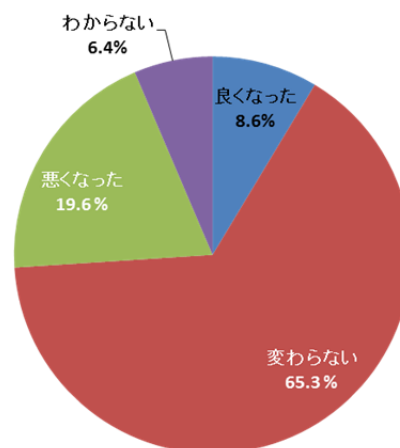
1. 主婦の景況感

「現在（2015年）の景気は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「良くなった」は全体の8.6%（前年差3.4ポイント上昇）、「悪くなった」は19.6%（前年差▲11.7ポイント低下）となった（図表1）。

全ての年代・住所・就業形態において、「良くなった」の回答率が上昇、「悪くなった」は減少した。ただし、「変わらない」という回答率が、全ての属性において最も多く、景況感は前年に引き続き厳しいものとなった（図表2）。

景況D.I.（「良くなった」－「悪くなった」の回答率の差）は前年の▲26.1%ポイントからやや良化し、▲11.0%ポイントとなった（図表3）。

図表1：主婦の景況感（全体）

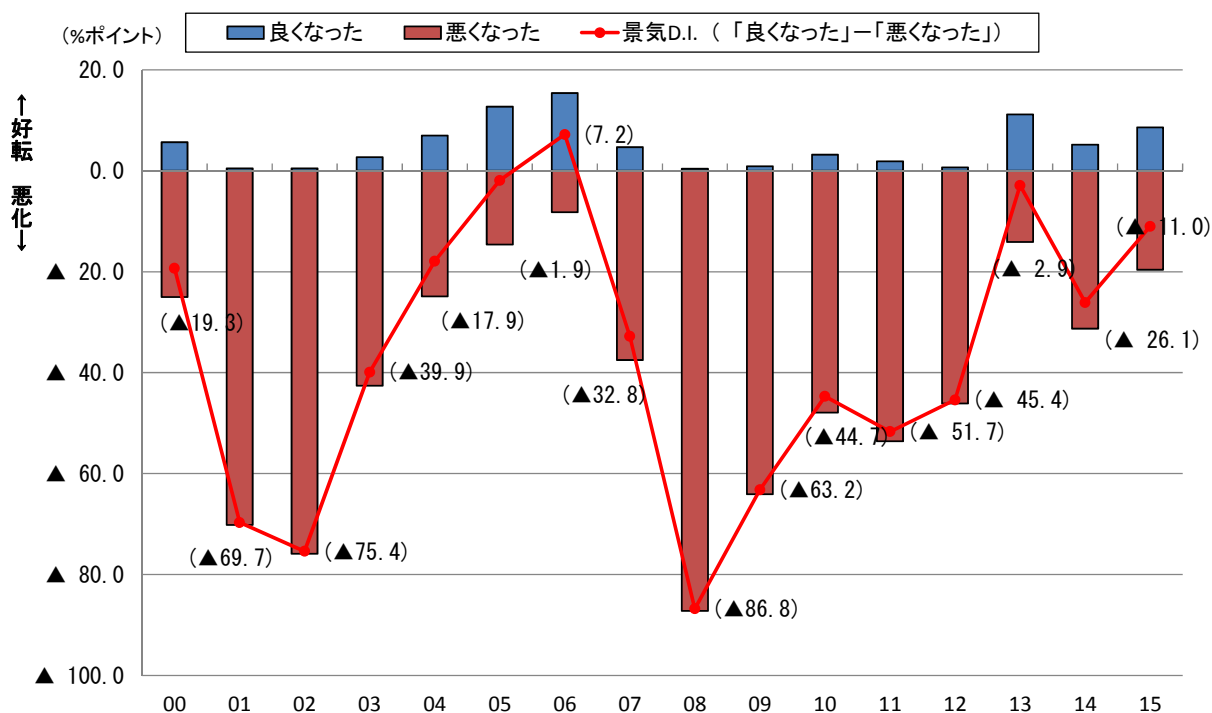


図表2：主婦の景況感（属性別）

	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	8.6 (3.4)	65.3 (8.7)	19.6 (▲11.7)	6.4 (▲0.6)
20歳代	12.5 (6.4)	71.4 (4.7)	10.7 (▲6.0)	5.4 (▲5.2)
30歳代	7.9 (3.8)	69.8 (1.1)	11.1 (▲7.3)	11.1 (2.3)
40歳代	7.4 (4.0)	73.7 (15.2)	15.6 (▲17.7)	3.3 (▲1.4)
50歳代	7.8 (0.8)	61.5 (12.2)	24.7 (▲11.1)	6.1 (▲1.8)
60歳以上	11.4 (5.3)	48.8 (4.1)	30.9 (▲13.0)	8.9 (3.6)
岐阜県	8.2 (2.4)	63.9 (9.1)	21.4 (▲12.4)	6.5 (0.9)
愛知県	9.7 (5.2)	67.7 (9.4)	15.7 (▲13.3)	6.9 (▲1.4)
専業主婦	12.7 (5.1)	56.4 (1.8)	20.0 (▲10.3)	10.9 (3.3)
正社員	10.8 (5.6)	62.4 (5.3)	19.7 (▲11.4)	7.1 (0.5)
パート	4.8 (0.7)	71.7 (13.9)	18.7 (▲12.0)	4.8 (▲2.6)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表3：主婦の景況D.I.の推移



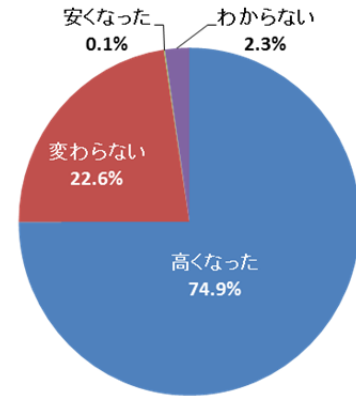
2. 主婦の物価観

「現在（2015年）の物価は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「高くなった」が全体の74.9%（前年差▲8.6ポイント低下）、「安くなった」は0.1%（前年差▲0.2ポイント低下）となった（図表4）。

「高くなった」との回答率は減少したものの、全ての年代・住所・就業形態において7割を超えており、依然として物価上昇が意識されていることがうかがえる（図表5）。

物価D.I.（「高くなった」－「安くなった」の回答率の差）は74.8%ポイント（前年差▲8.4ポイント下落）となった（図表6）。

図表4：主婦の物価観（全体）

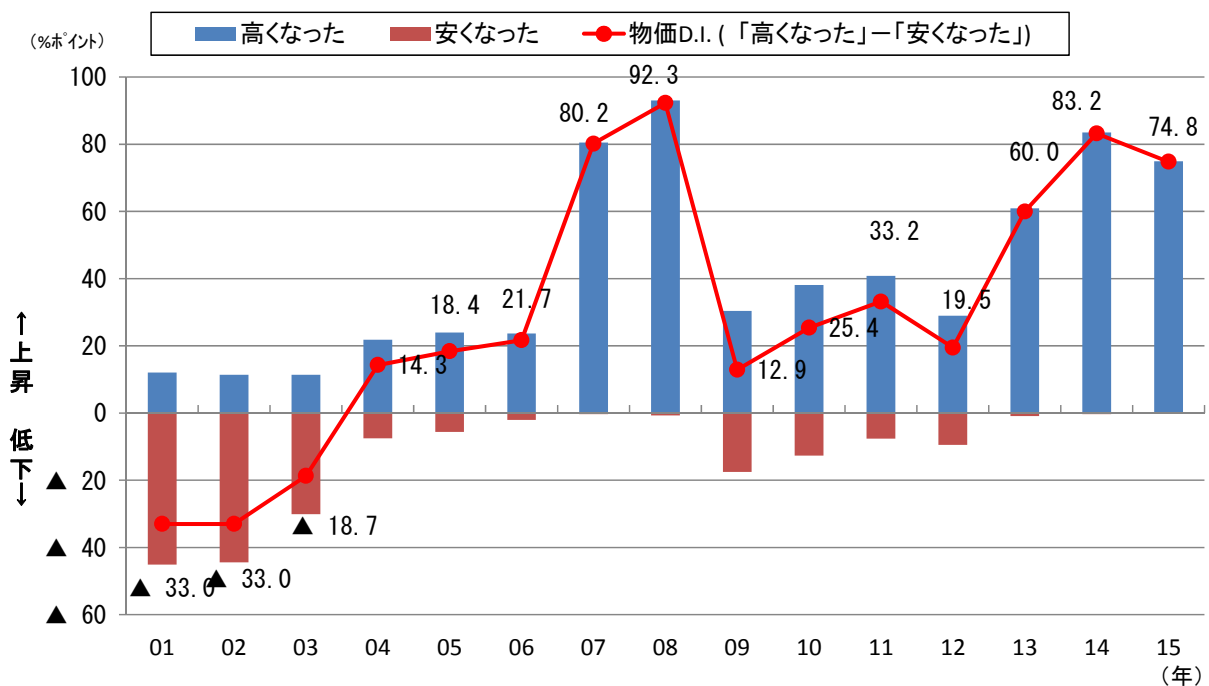


図表5：主婦の物価観（属性別）

	(%)			
	高くなった	変わらない	安くなった	わからない
全体	74.9 (▲ 8.6)	22.6 (8.0)	0.1 (▲ 0.2)	2.3 (0.6)
20歳代	76.8 (▲ 0.5)	21.4 (6.2)	0.0 (0.0)	1.8 (▲ 5.8)
30歳代	70.6 (▲ 9.7)	23.0 (4.0)	0.0 (0.0)	6.3 (5.6)
40歳代	73.6 (▲ 10.6)	24.8 (10.3)	0.4 (0.4)	1.2 (▲ 0.1)
50歳代	73.6 (▲ 11.8)	24.2 (11.1)	0.0 (0.0)	2.2 (0.8)
60歳以上	83.7 (▲ 2.3)	15.4 (4.0)	0.0 (▲ 1.8)	0.8 (▲ 0.1)
岐阜県	73.4 (▲ 9.8)	23.6 (8.7)	0.2 (▲ 0.2)	2.8 (1.3)
愛知県	76.8 (▲ 7.6)	21.3 (7.8)	0.0 (0.0)	1.9 (▲ 0.2)
専業主婦	71.8 (▲ 9.7)	20.0 (2.4)	0.9 (0.9)	7.3 (6.5)
正社員	74.1 (▲ 7.8)	24.1 (9.5)	0.0 (▲ 0.7)	1.7 (▲ 1.1)
パート	75.4 (▲ 10.1)	23.2 (9.9)	0.0 (0.0)	1.4 (0.2)

(注)括弧内は、前年差を示す。

図表6：主婦の物価D.I.の推移

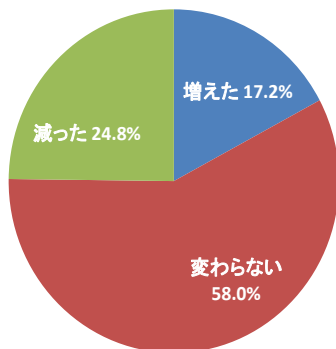


3. 家計の収支

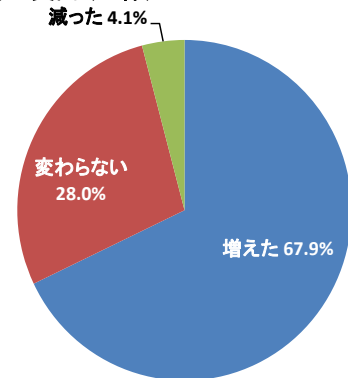
「2015年の家計収入は、2014年と比べてどうなりましたか」と尋ねたところ、「増えた」は全体の17.2%（前年差+3.5ポイント）、「減った」は24.8%（前年差▲5.1ポイント）となった（図表7）。家計支出についても同様に尋ねたところ、「増えた」は全体の67.9%（前年差▲5.6ポイント）、「減った」は全体の4.1%（前年差▲0.1ポイント）となった（図表8）。

家計収入について、「変わらない」と「減った」の回答率の合計は8割以上となっており、「増えた」は依然として少数派となっている（図表9）。その一方で、物価上昇が意識されている中、家計支出は「増えた」との回答率は約7割となっている（図表10）。

図表7：家計の収入（全体）



図表8：家計の支出（全体）



図表9：家計の収入（属性別）

	（%）		
	増えた	変わらない	減った
全体	17.2 (3.5)	58.0 (1.6)	24.8 (▲ 5.1)
20歳代	28.6 (1.6)	58.9 (▲ 4.6)	12.5 (3.0)
30歳代	30.4 (9.3)	56.0 (▲ 6.6)	13.6 (▲ 2.7)
40歳代	16.9 (4.9)	66.7 (7.9)	16.5 (▲ 12.7)
50歳代	11.7 (1.8)	55.4 (0.0)	32.9 (▲ 1.8)
60歳以上	9.8 (2.7)	47.2 (6.1)	43.1 (▲ 8.7)
岐阜県	15.2 (1.9)	59.7 (3.6)	25.2 (▲ 5.5)
愛知県	20.1 (5.8)	56.3 (0.2)	23.6 (▲ 6.0)
専業主婦	20.9 (3.8)	48.2 (2.9)	30.9 (▲ 6.7)
正社員	19.7 (4.9)	57.1 (▲ 4.2)	23.1 (▲ 0.8)
パート	14.7 (2.9)	61.2 (5.6)	24.1 (▲ 8.4)

（注）括弧内は、前年差を示す。

図表10：家計の支出（属性別）

	（%）		
	増えた	変わらない	減った
全体	67.9 (▲ 5.6)	28.0 (5.7)	4.1 (▲ 0.1)
20歳代	64.3 (▲ 5.5)	35.7 (7.1)	0.0 (▲ 1.6)
30歳代	77.6 (1.4)	20.8 (▲ 1.6)	1.6 (0.2)
40歳代	75.2 (▲ 9.3)	21.5 (9.5)	3.3 (▲ 0.1)
50歳代	58.7 (▲ 8.8)	34.8 (9.3)	6.5 (▲ 0.6)
60歳以上	62.6 (1.9)	31.7 (▲ 2.2)	5.7 (0.3)
岐阜県	68.1 (▲ 7.1)	26.7 (5.6)	5.2 (1.5)
愛知県	67.6 (▲ 3.8)	29.6 (5.9)	2.8 (▲ 2.1)
専業主婦	70.6 (1.4)	26.6 (1.0)	2.8 (▲ 2.3)
正社員	65.2 (▲ 8.7)	31.1 (8.5)	3.8 (0.3)
パート	68.6 (▲ 7.7)	26.6 (6.8)	4.8 (1.0)

（注）括弧内は、前年差を示す。

4. 家計支出の動向

(1) 支出が増えた費目

「2015年の家計支出を考えたとき、2014年より支出が増えた費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「食費」（58.9%）がトップとなり、ついで「交通・通信費」（31.0%）、「教育費」（28.8%）となった（図表11）。

支出が増えた上位7費目の推移をみると、2014年ほどのインパクトはないものの消費税増税や、円安に伴う食品の相次ぐ値上げ等により「食費」との回答率が突出していた（図表12）。ただし、全体の水準をみると、2014年よりも支出が「増えた」との回答率が大きく減少している項目もあり、費用の増加を抑える生活防衛を進めていることがうかがえる。

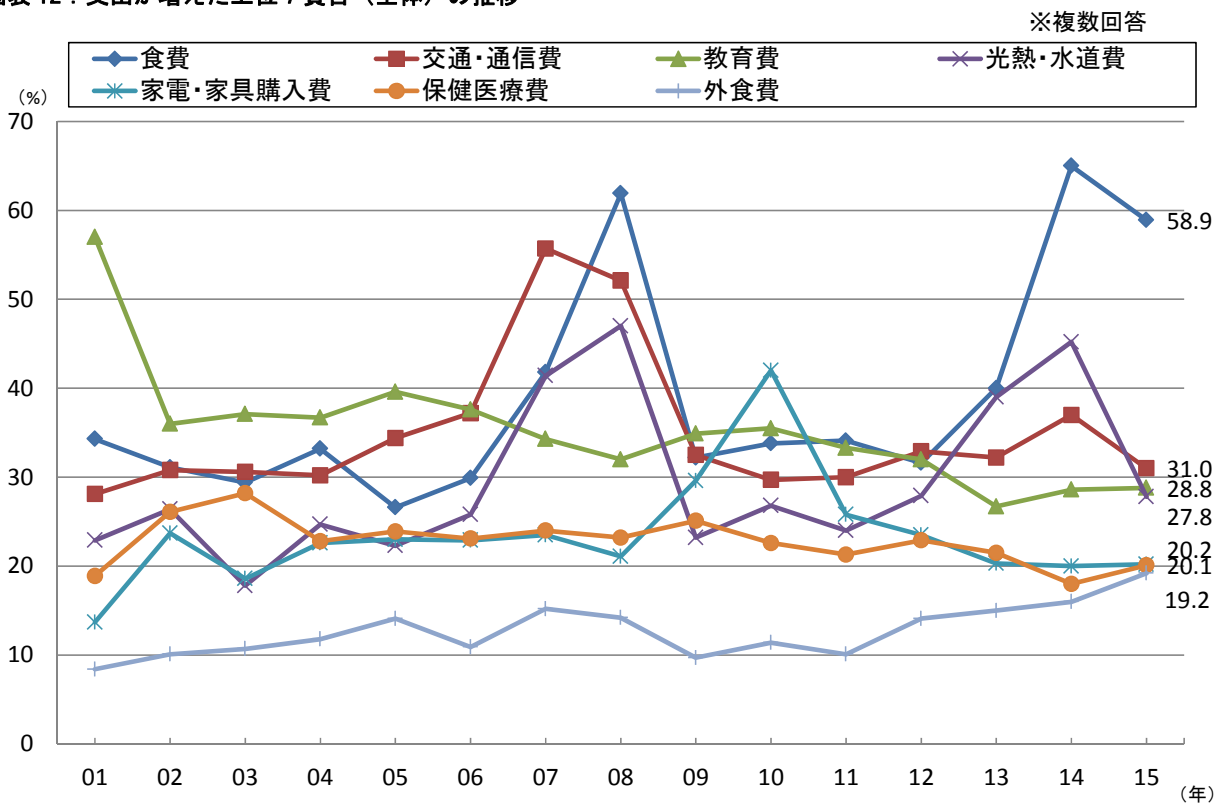
図表11：支出が増えた上位7費目（属性別）

	食費		交通・通信費		教育費		光熱・水道費		家電・家具購入費		保健医療費		外食費	
全体	58.9	(▲6.1)	31.0	(▲6.0)	28.8	(0.2)	27.8	(▲17.4)	20.2	(0.2)	20.1	(2.1)	19.2	(3.2)
20歳代	69.6	(3.5)	30.4	(▲9.9)	10.7	(9.1)	25.0	(▲10.5)	21.4	(▲7.6)	14.3	(▲0.2)	30.4	(3.0)
30歳代	68.6	(▲9.3)	24.8	(▲4.9)	43.0	(0.9)	26.4	(▲11.5)	14.0	(▲0.5)	10.7	(0.4)	24.0	(4.7)
40歳代	55.5	(▲7.8)	34.0	(▲10.1)	56.7	(▲0.9)	26.9	(▲19.8)	23.9	(7.7)	13.9	(1.7)	15.1	(2.4)
50歳代	53.4	(▲2.4)	37.2	(▲4.6)	10.3	(0.2)	30.0	(▲16.6)	19.3	(▲6.2)	20.6	(1.8)	17.9	(3.5)
60歳以上	61.0	(▲7.2)	19.5	(▲1.4)	1.7	(0.8)	28.0	(▲26.5)	20.3	(0.3)	44.1	(3.2)	19.5	(4.0)
岐阜県	60.9	(▲2.5)	32.7	(▲5.5)	31.3	(3.3)	28.6	(▲17.5)	20.8	(2.0)	20.0	(3.7)	17.2	(2.2)
愛知県	56.2	(▲11.7)	28.8	(▲7.3)	25.5	(▲4.1)	26.8	(▲17.5)	19.0	(▲3.5)	19.3	(▲1.4)	22.2	(4.0)
専業主婦	69.4	(3.0)	22.2	(▲4.3)	21.3	(▲3.5)	36.1	(▲8.1)	21.3	(5.4)	29.6	(5.7)	13.9	(▲1.1)
正社員	57.9	(▲7.3)	27.1	(▲8.0)	22.5	(▲0.8)	26.8	(▲17.6)	19.3	(0.7)	16.8	(1.0)	25.4	(5.0)
パート	57.1	(▲7.3)	37.2	(▲5.6)	36.6	(2.8)	26.2	(▲20.2)	21.0	(▲0.9)	19.0	(1.0)	15.0	(2.4)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。

(注2) 括弧内は前年差を示す。

図表12：支出が増えた上位7費目（全体）の推移



(2) 支出が減った費目

「2015年の家計支出を考えたとき、2014年より支出が減った費目は何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「レジャー費」(35.8%)がトップとなり、ついで「外食費」(25.9%)、「衣料費」(24.7%)となった(図表13)。

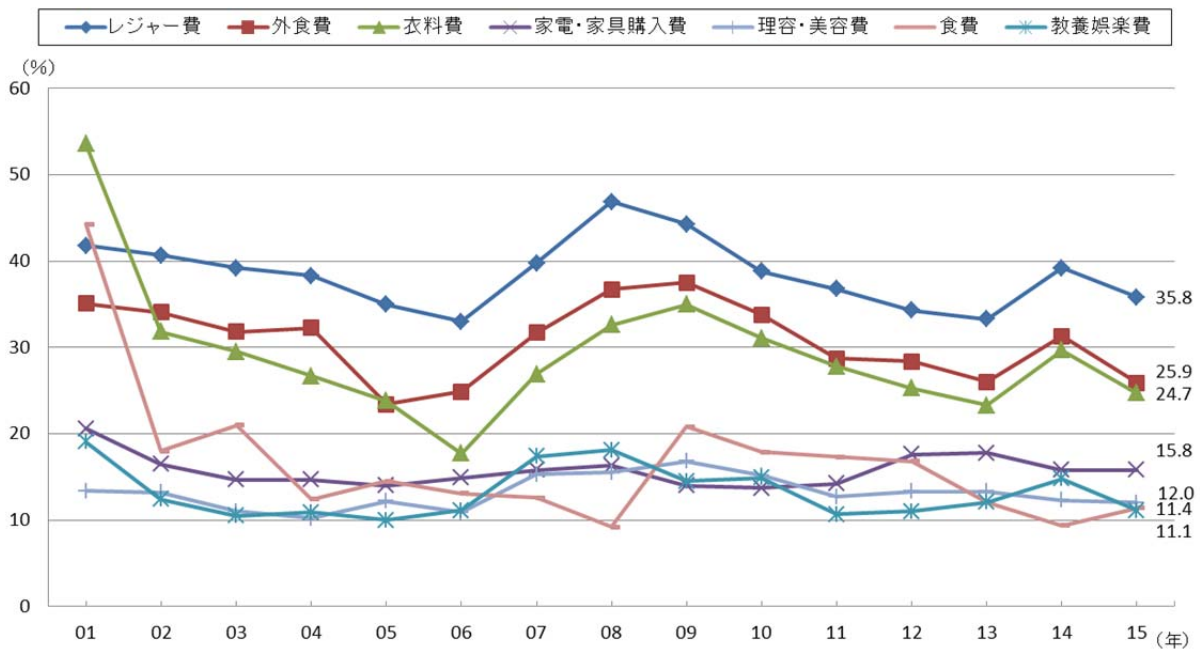
支出が減った上位7費目の推移をみると、上位4費目はいずれも2014年と同じとなった(図表14)。

図表13：支出が減った上位7費目（属性別）

	※複数回答 (%)						
	レジャー費	外食費	衣料費	家電・家具購入費	理容・美容費	食費	教養娯楽費
全体	35.8 (▲ 3.4)	25.9 (▲ 5.4)	24.7 (▲ 5.0)	15.8 (0.0)	12.0 (▲ 0.3)	11.4 (2.0)	11.1 (▲ 3.7)
20歳代	23.5 (▲ 5.1)	25.5 (5.1)	27.5 (▲ 9.2)	21.6 (13.4)	15.7 (5.5)	5.9 (▲ 0.2)	7.8 (1.7)
30歳代	39.3 (2.8)	18.0 (▲ 6.3)	18.0 (▲ 2.0)	16.9 (▲ 4.8)	15.7 (2.7)	7.9 (2.7)	11.2 (2.5)
40歳代	45.9 (▲ 1.5)	24.5 (▲ 14.8)	19.9 (▲ 5.1)	13.8 (2.1)	12.2 (▲ 1.1)	12.8 (4.6)	11.7 (▲ 2.6)
50歳代	31.2 (▲ 3.2)	31.2 (1.1)	25.7 (▲ 3.8)	14.9 (▲ 4.2)	10.9 (▲ 2.2)	12.4 (0.4)	8.4 (▲ 14.0)
60歳以上	27.7 (▲ 12.5)	25.5 (▲ 5.4)	37.2 (▲ 10.2)	18.1 (3.7)	8.5 (▲ 0.8)	12.8 (▲ 0.6)	17.0 (3.6)
岐阜県	36.6 (▲ 2.6)	28.7 (▲ 4.2)	25.4 (▲ 2.8)	16.6 (0.5)	12.1 (▲ 2.6)	10.7 (1.5)	11.3 (▲ 5.5)
愛知県	34.5 (▲ 4.6)	20.9 (▲ 7.5)	23.3 (▲ 8.4)	16.1 (0.1)	11.2 (1.7)	13.3 (3.4)	11.6 (▲ 0.3)
専業主婦	37.8 (2.4)	28.0 (3.0)	32.9 (▲ 1.5)	13.4 (0.9)	14.6 (8.3)	9.8 (▲ 0.6)	8.5 (▲ 6.1)
正社員	28.8 (▲ 9.5)	25.0 (▲ 1.9)	23.7 (▲ 8.9)	17.4 (▲ 0.2)	13.1 (▲ 1.4)	12.3 (4.8)	12.7 (▲ 1.4)
パート	41.0 (1.3)	27.1 (▲ 8.9)	22.4 (▲ 3.3)	15.9 (0.5)	10.2 (▲ 2.8)	11.2 (1.6)	11.2 (▲ 3.9)

(注1) 網掛けは、各属性における最も回答率の高い費目。
 (注2) 括弧内は前年差を示す。

図表14：支出が減った上位7費目（全体）の推移



(3) 高額商品の購入について

2015年に1商品10万円以上する高額商品の購入について質問し、「購入した」と回答した人に「具体的にどんなお買物をしましたか」と尋ねたところ、「国内旅行」が全体の33.9%と最も多く、次いで「自動車の購入・維持」(27.5%)、「一般家電」(26.4%)となった。「国内旅行」が前年に続き1位だったものの、40歳代を除いて全世代で回答率は低下した。また2位の「自動車の購入・維持」は、60歳以上を除く世代で低下し、特に30歳代は二桁ポイントの低下となった(図表15、図表16)。

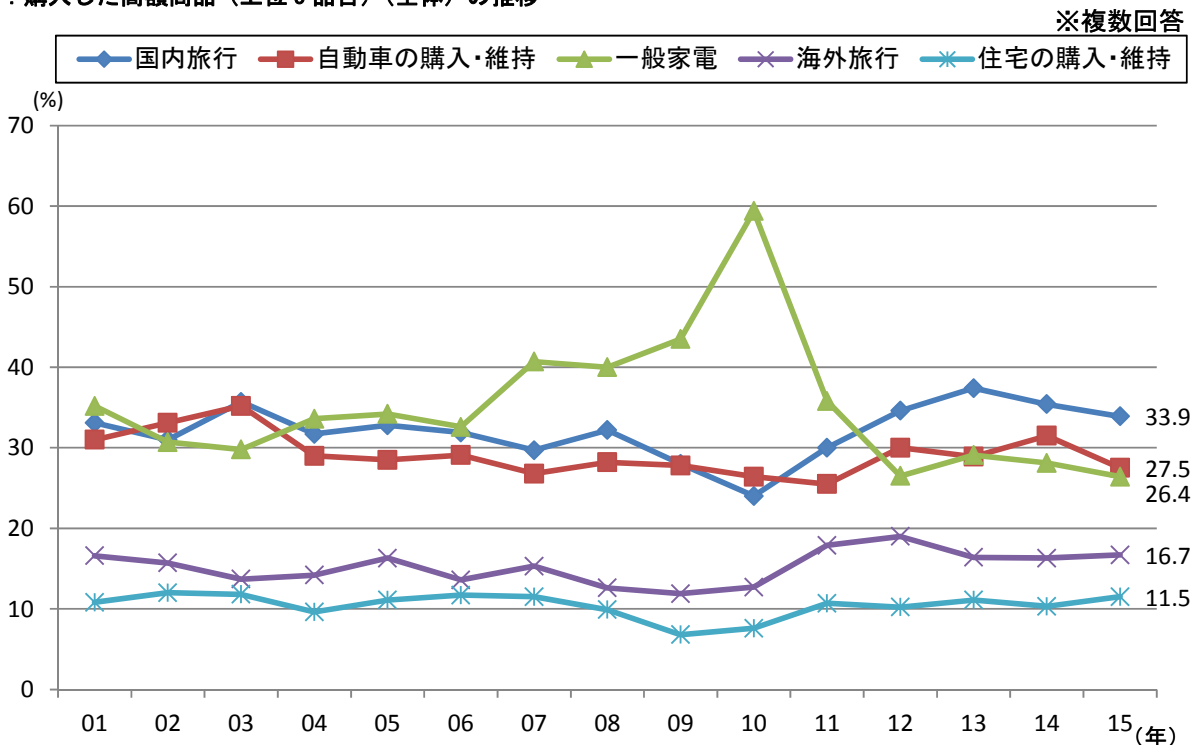
図表15：購入した高額商品(上位5品目)(属性別)

	※複数回答(%)				
	国内旅行	自動車の購入・維持	一般家電	海外旅行	住宅の購入・維持
全体	33.9 (▲1.5)	27.5 (▲4.0)	26.4 (▲1.7)	16.7 (0.4)	11.5 (1.2)
20歳代	12.8 (▲1.2)	23.1 (▲4.8)	33.3 (▲10.9)	41.0 (▲12.5)	7.7 (▲8.6)
30歳代	44.3 (▲2.3)	24.3 (▲13.2)	21.4 (5.5)	14.3 (4.1)	10.0 (▲3.6)
40歳代	38.8 (5.0)	30.2 (▲7.2)	30.9 (2.8)	6.5 (▲0.7)	6.5 (0.7)
50歳代	29.9 (▲6.4)	31.3 (▲1.3)	25.0 (▲7.6)	20.8 (4.5)	15.3 (4.2)
60歳以上	33.9 (▲2.2)	19.4 (9.6)	21.0 (▲3.6)	17.7 (▲2.0)	17.7 (7.9)
岐阜県	34.3 (▲1.2)	31.9 (▲2.1)	29.8 (4.5)	12.5 (▲1.1)	14.1 (3.9)
愛知県	32.6 (▲2.7)	21.6 (▲7.3)	23.2 (▲7.8)	22.1 (2.3)	8.9 (▲1.8)
専業主婦	41.2 (7.9)	23.5 (▲3.2)	27.9 (1.2)	14.7 (▲8.0)	17.6 (1.6)
正社員	31.2 (▲3.5)	24.2 (▲1.1)	24.2 (▲6.4)	21.5 (▲3.8)	12.9 (1.1)
パート	34.8 (▲1.7)	33.7 (▲4.2)	28.8 (3.2)	13.0 (5.6)	8.2 (1.8)

(注1) 網掛けは、各属性別における、最も回答率の高い商品。

(注2) 括弧内は前年差を示す。

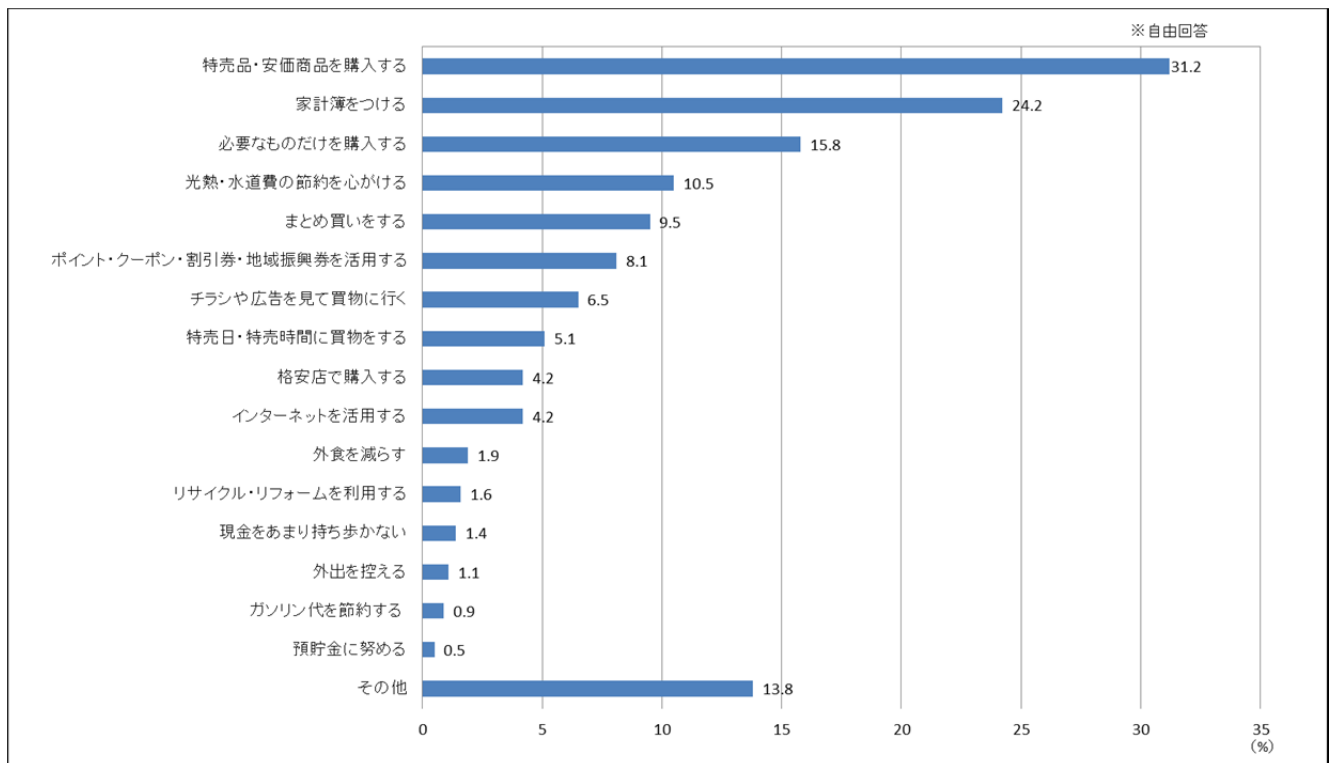
図表16：購入した高額商品(上位5品目)(全体)の推移



5. 家計管理で工夫していること

最後に「あなたが家計を管理する中で、工夫していることは何ですか(自由回答)」と尋ねたところ、1位は「特売品・安価商品を購入する」、次いで「家計簿をつける」、「必要なものだけを購入する」となった(図表17)。年代別にみると、20歳代での「家計簿をつける」(57.1%)が突出しており、家計を預かる新米主婦が家計の実態把握に努めていることがうかがえた(図表18)。また、30歳代、40歳代、50歳代で3人に1人が「特売品・安価商品を購入する」と回答し、堅実な消費行動を行っていることが分かった。

図表17：家計管理で工夫していること(全体)



図表18：家計管理で工夫していること上位6項目(年代別)

